

パワハラを撲滅を

近畿地協第4回定期大会に37人

10月18日(日)、近畿地協第4回定期大会が京都・本能寺会館で開催され、役員・代議員・来賓・オブザーバー37人(委任状4含む)が参加しました。

富士野議長は、「この1年、近畿が組織拡大で全国の牽引車の役割を果たした。引き続き組織拡大に向けて奮闘し、要求実現に取り組もう」とあいさつ、金融労連中島副委員長、京都総評、政党代表などの来賓から、お祝いと激励の挨拶を受けました。全議案が満場一致で採択され、新年度役員がそれぞれ満票で選出されました。大会で選出・承認された新役員は次の通りです。(敬称略)

議長	浦野 弘 (金融ユニオン)
副議長	岡野 展子 (泉州銀行従組)
	車谷 薫 (滋賀銀行従組)
	富士野三男 (金融ユニオン)
	堀江 一道 (京都北都信金従組)
事務局長	福井 悦雄 (京都北都信金従組)
事務局次長	伊藤 宗孝 (金融ユニオン)
常任幹事	植村 武 (京都北都信金従組)
	浦谷 貞子 (金融ユニオン)
	白波瀬隆人 (京都北都信金従組)
	辻 昇三 (金融ユニオン)
	松島 照男 (金融ユニオン)
幹事	八軒 和也 (滋賀銀行従組)
会計監事	岡崎 章兆 (金融ユニオン)
	川村 孝 (金融ユニオン)

大会では、「パワハラによるメンタル不全是目の前に迫っている問題で他人事ではない。労働組合として最優先で取り組んでほしい」「非正規労働者ひとりの勇気が数百名のパート労働者の雇用を守った」「経営悪化を理由にいつまで我慢を強いられるのか、職場の不満は増大している」「組織を拡大して影響力を強めたい」「労働組合のおかげで職場に戻れた」「合併以降、昇進昇格のハンディが明らかになっている」「振替休日にまで出勤させられ上司も目をつぶっている」「心の病に罹っている職員が2ケタに増加している」「合併を前にモノ申す組合を厄介者として経営者の目に映っている」「金融ユ

ニオンに期待している」など今年入社した若い仲間を含め10人が発言しました。

地協大会にメッセージをいただいた団体

- 大阪労連 ●自交総連大阪地連
- 国労大阪地本 ●福祉保育労大阪地本
- 全国一般大阪府本部 ●大阪医労連
- 全損保大阪地協 ●生協労連大阪府連
- 全印総連大阪地連 ●JMIU大阪地本
- 国公労大阪地連 ●建交労関西支部
- 大阪自治労連 ●通信労組大阪支部
- 大商連 ●全大阪消費者団体連絡会
- 京商連 ●奈労連 ●金融労連東京地連
- 金融労連中国四国地協 ●仙台銀行労組
- 静岡中央銀行従組 ●第三銀行従組
- 南日本銀行従組 ●りゅうぎんBS労組
- 大正銀行従組



金融ユニオン近畿支部も結成

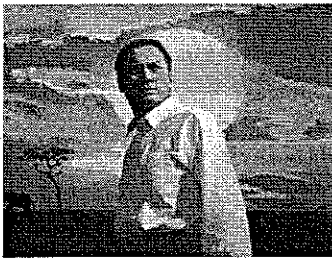
地協定期大会に先立って、金融ユニオン近畿支部の結成大会が行われ、これまでの共同をさらに進め、組織拡大に取り組むことなどを確認し、新役員を選出しました。

【金融ユニオン近畿支部新役員】

- | | |
|------|-----------------|
| 委員長 | 浦野 弘 (大阪分会) |
| 副委員長 | 浦谷 貞子 (滋賀分会) |
| // | 辻 昇三 (きのくに信金分会) |
| 書記長 | 伊藤 宗孝 (直属分会) |
| 執行委員 | 松島 照男 (大阪分会) |
| 会計監事 | 沼田 教夫 (大阪分会) |
| // | 鈴木二三子 (大阪分会) |

お薦め映画「沈まぬ太陽」

10月24日から全国の東宝系劇場で上映されている「沈まぬ太陽」が話題になっている。この映画は、労働組合を分裂させ、会社側の意に沿う「御用組合」の幹部の人たちに特に見ていただきたい。



国民航空の労働組合委員長・恩地（渡辺謙）は職場環境の改善に奔走した結果、海外勤務を命じられてしまう。それまで一緒に労組役員をやっていた行天（三浦友和）は、会社側から出世を条件に組合分裂策動に加担する。10年におよぶ孤独な島流し勤務生活に耐え、本社復帰を果たすもジャンボ機墜落事故が起き、救援隊として現地に行った彼はさまざまな悲劇を目の当たりにする。

実在の人物や企業のイメージを大きく傷つける可能性があるので、これまで「映像化は不可能」とされてきた。航空業界からの撮影協力を得るのも難しかったためだ。「映像化なしでは死ねない」と話していたという山崎さんは、製作サイドに、「主人公の不条理」「遺族の切なさ」「大企業のあり方」の表現を要請。若松監督も「人間ドラマを描くとともに、企業の人間性の回復を警鐘したい」とする。

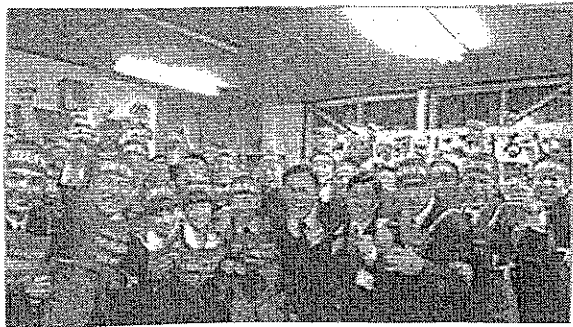


労働組合を分裂させ、闘う労働組合員に対する陰湿な差別を描くシーンでは、これまで私たちの組合に対して行なわれてきた攻撃とダブって怒りがよみがえる。最後まで仲間を裏切らずに耐えた恩地と出世のために仲間を裏切る行天の結末を見て、自分の生き様を考えてほしい。

企業や利用者のことを本当に考えていたのが、誰であるかを改めて私たちに教えてくれる映画だ。

企業や利用者のことを本当に考えていたのが、誰であるかを改めて私たちに教えてくれる映画だ。

企業や利用者のことを本当に考えていたのが、誰であるかを改めて私たちに教えてくれる映画だ。



地域再生に向け中小業者との共同を

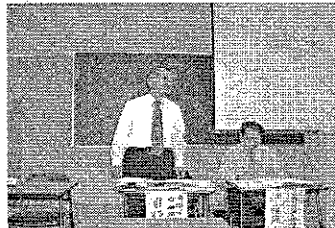
京都で中小商工業全国交流・研究集会

10月31日から3日間、京都市内で第16回中小商工業全国交流研究集会が開催され、全国から1,500人を超える中小業者・労働者・研究者らが参加しました。金融労連からも4人が参加し、全国の中小業者の実態や金融機関の現場の状況などを交流しました。

岡田知弘京都大学教授は基調講演で、地域経済再生への戦略と展望として、国民の消費購買力の拡大、中小企業金融円滑化対策など6項目を挙げ、地域崩壊を招いている市町村合併の実態を解説しました。京都府舞鶴市に今年4月に開設された「舞鶴かまぼこ知ろう館」が、自治体労働者を中心とした研究会「まい研」のわずか半年間の調査で地元の材料を地元でつくる「かまぼこ」を多くの人に知ってもらうための利用者の意見などを反映させた取り組みの中で誕生したことなどを紹介しました。

「変化に対応した金融」講座

初日夜5時から8時まで行なわれた4つの基礎講座のうち「変化に対応した金融」講座では、近



畿地協の浦野議長が約1時間に渡って、「融資先への厳しい検査」から「貸し渋りを重点にした検査」に変わるなど最

近の金融庁の対応の変化や、一方で行なわれている「収益を上げて株価を上げる」銀行経営に対する指導の実態などを話しました。

中小企業金融円滑化法案の活用を

2日目に行なわれた20の分科会の中の「地域金融」の分科会には50人を超える人が参加、金融労連・田畑書記長が座長を務めました。

ここでは新政権の下で法案が出される「中小企業金融円滑化法」の活用に向けて学習が行なわれました。静岡大学の鳥畑教授は「返済猶予が借り手のモラルハザードを招く」という批判は、中小企業の置かれている立場を知らない人の考えだ。中小業者は借金を踏み倒してもいいなどとは考えていない」と金融円滑化法案に対する一部の消極姿勢を批判したうえで、同法案が「返済猶予に誠実な信金信組の経営を守るようなものでなければならない」と述べました。